

## 平成26年度 弘前大学グローバル人材育成事業 学生海外PBLプログラム報告書

事業名：行動中心主義複言語・複文化プロジェクト：「弘前×ボルドー」プロジェクト

参加者：学生3名

熊野 真規子、小野寺 進（教員）

実施期間：平成27年 2月 9日ー平成27年 2月23日

訪問先：ボルドー市、ブーヴロン・アン・ノーシュ村

申請代表者：熊野 真規子（人文学部 准教授）

### 《事業の概要及び成果等》

「弘前×フランス」プロジェクト（弘前大学人文学部「複言語・複文化教育プロジェクト」〔フランス語モデル〕\*2015年度からプロジェクト型地域志向科目：欧米文化コース特設講義「地域と世界をつなぐ」として授業化を試行する）の海外プログラムとして位置づけ、①地域の文化を調べて発信する活動、②現地学生との協働作業と交流活動、③現地の文化と伝統についての取材活動 をつうじて、外国語の運用能力の実践（あるいはそれを高めることへのモチベーション向上）、複眼的・多角的思考へと結びつく多様性の認識、「地域を知り、それを世界とつなぐ力」、「世界を知り、それを地域につなぐ力」を育てることを目的として、事業を実施した。

イスラム国テロ事件の影響で家族の理解をどうしても得られなくなった学生2名（4年生）が出発の迫った時期に辞退を決意し、企画担当だった2、3年生3名のみで事業を実施する結果となった。

【課題1】：地域を知り、それを世界とつなぐ

（①地域の文化を調べて発信する活動＋②現地学生との協働作業と交流活動）

【課題2】：世界を知り、それを地域とつなぐ

（①現地の文化と伝統についての取材活動＋②現地学生との協働作業と交流活動）

### ○事前活動

「弘前×フランス」プロジェクト月一まちなか企画の1月イベント準備・実施・報告期間に重なった2年生女子2名、「学都弘前」助成金報告書提出時期に重なった3年生男子1名は、期末試験・レポート期間の過密なスケジュールをぬって、企画を分担し、地域（弘前市）について発信するために自分たちが選んだ物産等の製作者・生産者に企画書を持参の上、物品の提供を受けるという出発前準備から事業はスタートした。アポイントをとり、自分たちの思いを伝え、協力を得ることについては1年間のプロジェクトの成果があらわれ、スムーズに大人の理解と支援を受けることができていた。現地学生との連絡、会場候補を見つけるのは4年生の分担であったが結果を得ることができず、会場未定のまま出発することになった。

### ○現地活動

フランスに到着した当日から、長旅で疲れているにもかかわらず、プロジェクトを遂行する場所の交渉とその確保に積極的に行動した。利用許可された時間が2時間半のみになったものの初日のうちに候補場所での展示が決まった。なお、紹介された Maison du Japon 日本館

とのアポイントでは、今後ボルドーで PBL を行う場合の会場協力と助言ほか、市の伝統・工芸品のフランスでのプロモーションについて助言など丁寧に対応していただき、そこで日本語を学ぶ社会人に、弘前の文化についてフランス語を交えて説明・交流できる機会も与えていただき、そのことが学生の自信につながったと思われる。

また、ボルドー大学では日本語クラブ Ôyashima「大八島」を中心に日本語専攻の学生たちと毎日のように交流活動が行われることになった。互いの文化や言語についてのやりとりをキャンパスを飛び出して活発に行い、その学生たちを巻き込んでプロジェクトを実施できたことは両大学の学生にとって有意義であったと感じられた。外国語学習へのモチベーションが互いに向上し、弘大の Cercle Francophone とボルドー大の「大八島」で WEB 上でも交流していくことにもなった。展示会当日は、展示許可を得ていた場所が急遽変更になったり、展示時間帯が日本語専攻学生のテストの時間と重なったりと予定通り行かない点もあったが、はじめて具体的な形で弘前を発信でき、大いに関心を集めることができたのは学生の努力の成果と言える。

次の訪問地のブーヴロンでは、事前のメールでのやりとりで来年度フランス祭でのブーヴロン紹介の意向と取材を歓迎していただき、手厚い準備で迎えてくれたカンブルメール地区観光局代表のクリスチャン・ボサール氏、ブーヴロン・アン・ノージュ副村長アラン・ベルジェ氏（ジャン＝ミシェル・ラヴェル デティエンヌ村長海外出張につき）、前村長ミシェル・カファール氏に対し、楽しく意見交換や交流を図り、弘前市の大使としての気持ちを持ち、社会人として接することの大切さ、語学力よりも相手を知ろうとする気持ちの大切さを学んだようである。取材によってあきらかになったことから、市への具体的な提案を持ち帰ることもできた。

ボルドーでの交流も含め、相手に一歩近づきたいという気持ちを持ち得たこと、そのことによって語学力を向上させたいと強く思えたことは学生としての海外 PBL のもっとも有意義な点であると思われる。成果について学生は、3/7 の「学都弘前」成果発表会で触れたほか、3/20 の RPK2015 で「弘前×フランス」プロジェクト1年の全活動を発表する際に触れるほか、来年度「弘前×フランス」プロジェクトの発行物、フランス祭等で具体的に成果を反映する計画である。

#### 《フランスでの活動の様子》

